

秋季講演会

平成 15年 10月 31日(金) / 場所:愛知県勤労会館

「それぞれの企業と立場に自信を持って」。これが今年の秋季講演会での遠山塾主の第一声だった。

塾主曰く「世の中は急激に変化している。世界中の株価や主要な地域の地価、金の値段が上がりはじめているのは、デフレを解消しようとしている傾向だ。物流にしても、ネット革命により物の販売ルートも変わり、直接消費者に商品が流れ始めている。そして日本の経済環境は、2005年の愛知万博に合わせて完成する24時間稼働の中部国際空港により、物流の中心が東海地区に移り変わり、名古屋が日本の経済を引っ張る役割を担うだろう。今、世界はとても早いスピードで進化している。その事に気づくかどうか重要である」と。

「ビジネスチャンスはあるが、見る目がない」と塾主はおっしゃる。情報をそのまま聞いているだけでは意味がない。すべて商売にからんでいる。「自分が世の中の情報のどれに喰いつくか」。自社の立場で世の中の動きをみて、進化に気づき、自信を持って行動する。すべての基本が「知行合一」だと再認識させられる瞬間だった。

第2部は、遠山塾主と小笠原相談役の懇談。相談役の自己紹介をかねたエピソードで幕を開けた。「学生の時は勉強をした事がない」と相談役はおっしゃる。塾主の行動を真似て会社運営を始めるが、ことごとく失敗。「会社の土壌が出来てない



のに手法だけを真似しても駄目」と気づき、学び始めたそうだ。「ただ物を運ぶだけではなく、よいドライバーが附いて始めて商品になる。」との思いから、「社員一人一人が人生観を持つ為に勉強し、働くことに対し社員全員で価値観を共有する」という目標を持って、社員教育を30年以上繰り返してきた。そうした努力が年間事故件数、桁台という素晴らしい結果を生み出した。自社を「運送業ではなく、物流業である」と言い切れる自信はこの高い志があるからこそである。

「原理原則から積み重ねていかないと経営はできない」と言う相談役。塾で学ぶことはたくさんあるが、知識を知恵に変えないと意味がない。勉強することが目的ではなく、「勉強したことを使って自分の人生、経営に対峙していく事が目的」との力強いお言葉に、塾生としての本懐をあらためて感じた。

<第3塾 早川和孝>

輝く愛知の未来に捧げる志

EXPO 2005 「愛・地球博」協賛寄付

10月15日、遠山塾主をはじめ、榎本副塾頭、久米統括会議副議長、齋場Pの四方で、名古屋駅前の地球博協会事務局へお持ち頂いた同博への協賛寄付金。

去る4月の30周年記念行事「えんためばんばん祭」にご参加を頂いた各企業様、ご来場下さったお客様よりお預かりしたものだ。周知のとおり、祭り自体は薄収だった。が、立てた志を全うする青経塾の行動理念の元、今回の寄付となったことは言うまでもない。

手渡される塾主から「多くの方が、この環境重視未来型万博を経済発展のバネにと切望しておられ、その志をここにお持ちでき光栄に思います」と添えられると、同協会総務長坂本春生様より「ありがとうございます。幾多の困難を越えてよう



やく前が見えてきました。地元経済界の未来を担う、若い皆さんのご理解ご協力が頂いた事はとても嬉しい。大切に使用させて頂きます」との謝辞を頂戴した。

また、朝日・中日・中部経済新聞各紙で報道されたことも付記したい。

青経塾30周年事業が形となり、多くの方々の心に残る締めくくりを迎えられたことを実感した。

<第3塾 井川尚子>

今後の予定

平成 15年 12月 8日(月) 特別講演会(講師:木村政雄氏) / 産業貿易館

平成 16年 1月 9日(金) 新春講演会(講師:ユニー(株)西川特別顧問) / 名古屋国際会議場 白鳥ホール
賀詞交換会(名古屋国際会議場 イベントホール)